

ヒロシマ ユネスコ

2000年は

平和の文化国際年

ヒロシマ講座始まる

好評、定員超えた受講者

ヒロシマを中心に据えた系統的な学習の場を提供する「知っておきたいヒロシマ講座」が九月から始まり、定員五十人を超えて応募した六十九人が、毎月一回、来年三月までの七回シリーズの講義を熱心に受講しています。

第一回講座（九月二十二日）では、開講式で北川建次会長が挨拶して講義に入り、座席を埋めつくした受講者はメモを取りながら講師の話に耳を傾けました。

◆官民連携で展開

この講座は、もともと「ヒロシマをもっと勉強しよう」とする長年の当協会会員の声を実現したもので、実施にあたっては受講対象を会員に留めず広く市民を迎えようということから、(財)広島市ひと・まちネットワーク、(財)広島平和文化センターとの共催で開催することになったものです。

受講者募集は、広島市中央公

民館を応募受付窓口にして、広島市発行「市民と市政」紙上で呼びかける一方、広島市ひと・まちネットワークを通じて広島市内公民館に募集要項を配布しまた、講座会場は広島原爆資料館、講座運営は広島ユネスコ協会とするなど、まさに官民連携の事業として展開しています。



(写真は二回目の講座風景)

◆20歳～80歳の受講者

受講者は、青年から高齢者まで、また、職業も、学生も含めてさまざまな分野から、幅広く参加されています。最高齢者は80歳で、男女比では女性が約三分の二を占めています。なお広島ユネスコ協会会員の受講者は十五人（役員八人）です。

◆第一線の講師陣

定員を遙かに超える受講者が応募してきた要因は、官民連携のとりにくみの効果もさることながら、広島第一線の講師を配した講師陣にあるとする声が多くあります。

これまでの三回の講座では、講師作成のテキストに基づいて時間いっぱい熱く語られる講義、これを一言も聞き漏らすまいと熱心にメモを取る受講者―講座は緊張感を漂わせながら進められています。原爆ドームのユネスコ世界遺産登録を機に「改めて原爆ドームおよび原爆ドームの背景にあるヒロシマについて

知りたい」という、地域、国内の地域ユネスコ協会の声を受けて始まった講座。この受講者の中から、ヒロシマを継承し、語り継ぐ市民が巣立っていくことが期待されます。

改めて今後の講座日程をお知らせします。各講座とも一回限りの受講も受け付けます（一回の資料代五百円）。講義は、午後六時半～八時、広島原爆資料館東館地下会議室。

○12/22 「被爆の実相」（高橋昭博・元広島原爆資料館館長）

○1/26 「科学」（木村進匡・核戦争防止国際医師会議幹事）

○2/23 「文化」（安藤欣賢・中国新聞社論説副主幹）

○3/22 「国際」（水本和実・広島市立大学平和研究所助教）

▼9月「原爆ドーム」（永井滋郎・広島県ユネスコ連絡協議会会長、松林俊一・広島市文化財団課長）

▼10月「歴史」（大牟田稔・前(財)広島平和文化センター理事）

▼11月「碑めぐり」（久保浦寛人・岩本節子・原爆被害者証言のついで代表）

ユネスコ・トーク開催 まなびピア広島'99に参画

広島ユネスコ協会では、去る十月九日(土)午後二時からアステールプラザにおいて、ユネスコトーク「わが町の『お宝』再発見」を開催しました。

これは、今回広島で開催された第十一回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア広島'99)の関連事業として行ったもの。はじめに、広島県ユネスコ連絡協議会の永井会長が基調講演。ユネスコ世界遺産登録の経緯や意義などについて説明され



た。その後、ユネスコ・トークでは、大竹市と宮島町から現地の報告をうけ、さらに源流をたずねる会・井手代表幹事、中国新聞・守田記者の二名が加わって「わが町の『お宝』再発見」をテーマに話が進められました。ユネスコ世界遺産に登録された「原爆ドーム」や「厳島神社」の意義を踏まえ、広島県内の市町村の身近なところに文化財や自然の「宝物」が存在していないか、その保存・継承のあり方を探るための取り組みなどについてそれぞれ

いたの認識を新たにしました。
(参加者約七十名)

- ・ 竹原市文化財保護委員会
副委員長 太田 裕子
宮島町歴史民俗資料館 専門員 佃 雅文

第2回広島ユネスコ活動奨励賞

応募締め切る

広島ユネスコ協会結成二十五周年を機に昨年創設された広島ユネスコ活動奨励賞は、今年第二回を迎え、国際理解、国際協力、国際交流の活動を対象に公募していましたが、この十一月末の締切りの結果、学校部門八校、社会部門十一団体、合わせて十九件の応募がありました。

途中、休憩をはさんで、ギタリストの山田和彦さん他二人によるギターやフルートの演奏、歌で心和むひとときを過ごしました。また、会場には、ユネスコ世界遺産パネル展示や中国新聞に掲載された中国地方「近代遺産を歩く」記事も展示され、参加した皆さんは文化財保護や自然環境保全につ

- ・ 源流をたずねる会代表幹事 井手三千男
- ・ 中国新聞生活文化部記者 守田 靖
- (司会) 元中国放送アナウンス部長 井尾 義信

ユネスコ2000新春フェスタ

日時 2000年1月22日(土) 午後2時～
会場 メルパルク広島(中区基町)5階
内容
・ 広島ユネスコ活動奨励賞表彰式
・ 新春トーク&熱唱
出演 広島大学 原田 康 学長
・ 記念パーティー

第22回広島ユネスコ 高校生をつどい

日時 十二月十九日(日)
9:30~12:00
会場 広島大附属高校
内容 研究・実践発表

「共に生きるために」
環境問題」広島大附属
高校ユネスコ班

ユネスコ・コーアクション (募金活動)

十九日 13:30~16:00
場所 そごうデパート前
テーマ 「共に生きるために」
世界寺子屋運動事業支援
▼ 会員の皆さんのご参加をお願いします。

厳島神社災害復旧募金贈る

九月二十五日の台風十八号で世界遺産の厳島神社も建造物の損壊の被害がありました。当協会では、ユネスコ・トーク、サロン現地講座の参加者や協会役員に募金を呼びかけ、復旧の一助にと、去る十月四日、北川建次会長らが、厳島神社を訪れ、集められた浄財をお渡ししました。当協会では引き続き募金を受けつけています。

サロシ吉和村現地講座に参加して

去る十月二十三日(土) みなさんにご好評をいただいているユネスコ・サロシ現地講座を佐伯郡吉和村において開催いたしました。これは、住建美術館の見学、講演、もみの木森林公園森林浴を内容としたものです。以下概略を報告いたします。

住建美術館では、館所蔵の横山大観、上村松園、平山郁夫、岡田三郎助、富岡鉄斎等の絵画をはじめ、ウエリントン公爵のために製作された食器セットを含む華麗で精緻なマイセン磁器の数々、開館三周年記念「エミール・ガレとナンシー派展」の少女が持つ妖艶さを思わせる世紀末ガラス芸術作品群を、館員の詳しい説明を受けながら鑑賞し、感性・知識ともに刺激される時を過ごしました。

その後、紅葉には少し早い時期ではありましたが、もみの木の森林から吹く千歳緑と葉色の風にすがすがしい心持ちで講座をもみの木森林公園で受講いたしました。講師は、前吉和村村長の森本竹一・もみの木森林公園理事長で、演題は「おしやれ村長、村おこし」でした。

講師自ら演じられた腹話術よりスタートした講演では、人口千人の吉和村を「全国一の村おこし」として知られるまでの事業計画案から実施に至るご苦労、将来への展望を拝聴いたしました。村長在職時、村役場の職務を遂行されたうえに、広島市内の県庁に出勤簿があるのでは、と言われるほどハードスケジュールをこなされたこのこと。私が手帳に書き留めた理事長の言葉は「事を為し遂げるには、人と同じ発想、行動をして

いてはダメです」です。デザイナーに関する仕事柄、多方面からの発想に心がけている私ですが改めてわが身を振り返る瞬間でした

凛として清々しく繊細にして優美(おしやれ)な人生を歩まれ続けていらっしゃる理事長であればこそ、観光客もゴミを捨てることをためらわせる吉和村もみの木森林公園が在ると感銘を受けました。

講演でさらに心をリフレッシュし、森の香りを一杯に浴びながらサイクリングを楽しみ、また是非訪れようとの思いを胸にして帰路につきました。

(理事・松原博子)

賑わった。へあせろ。へ'99

広島に住むさまざまな国籍の人たちが一緒になって楽しめるお祭りをしようと、市民ボランティアによる実行委員会が主体となつて行うべあせろ(英語の「PEACE&LOVE」をスペイン語風に発音した造語)は今年で十六回目を迎えました。

去る十月三日(日)午前十時から中央公園芝生広場において開催され、広島ユネスコ協会も例年のようにこの事業に参加し、他

袋をまとつての踊りやコーラス、大極拳、ご当地クイズなどが行われ、各コーナーにおいては、お国自慢の料理や民芸品などが展示・即売されたり、台湾友好協会のコーナーでは、震災募金なども設けられました。

広島ユネスコ協会は「子ども」の伝承遊びコーナーを設置し、安佐北区小河内の青少年野外活動センターで活動している野外活動クラブの小田さん、小川さんに「わらぞうり」を、紙・ダンボール・木の葉・風船等を使った創作教室を宇根さん、山村さんに指導いただきました。

風づくりでは日本風の会会員の松本さんに指導いただき、子どもたちに大変な人気でした。早速、出来上がった風を使って風揚げを楽しんでいました。さらに、古代火おこしや竹を使った竹トンボづくりなどに親子で挑戦しました。

また、今回はじめて、ユネスコ世界遺産に登録された原爆ドームや宮島、飛騨高山などのパネル写真の展示も行い、通るかかった人が足を止めて写真に見入っていました。

このイベントは年々参加団体も増えて、大勢の人で賑わいました。

(理事・國田 繁)

この日は、前日に心配されていた天候とは打って変わって、絶好の行楽日和となりました。会場には三十か国以上が参加し、ステージを取囲んで国際色豊かに四十二団体のブースが立ち並び、新たに各団体を紹介する情報コーナーも設けられました。

ステージでは、各国の民族衣

ユネスコ事務局長に松浦晃一郎氏が当選

去る十月二十日、ユネスコ執行委員会がパリ市において開催され、ユネスコ事務局長に松浦晃一郎・駐仏大使が候補者として指名され、十一月十二日の総会で正式に承認されました。アジアからはじめての事務局長となり、われわれ民間ユネスコ活動の関係者にとりましても大変な喜びであり、今後の氏のご活躍に大きな期待が寄せられています。

この日本人の事務局長就任について、日本ユネスコ協会連盟の村井了理事長は、当協会に対して、次のようなメッセージを寄せられました。

『世界の多くの知識人によつて、ユネスコを通じ、称えられた思想・主張を効率的に事業化していくため日本から有能な行政経験者を送り込むことの意義は大きいと認識している。……私も民間ユネスコ運動の関係者も内外の教育インフラ充実の協力、異文化理解、共生のための多彩な事業の展開等の充実を通じ、平和の文化確立の道を確認可能なものにするため、皆さまとともに一層の努力を続けていきたいと思えます。』(一九九九年十月二十一日に当協会あてに)

ロシア遺産巡り

会員 和泉美佐保

今年、ロシアは、二十数年ぶりの猛暑とのこと。とにかく暑いモスクワ入りでした。

円対ルーブルで多少とまどつた時もありました。が、前回(ソ連崩壊の少し前)とは違って、機内でのサービスぶり、ガイドさんの自由な応答ぶりには目を見張るものがあったように思います。

「トロイツェ・セルギー大修道院」では大行列、多くの信者が訪れるようになったようすに、レニングラードよりも歴史や町の景観にびったり合う名前「サンクトペテルブルグ」では、遺産もさることながら、ここまですり抜いた人々の力に心を動かされました。

かされました。

この度巡った世界遺産の中で趣を異にしていたのが、フィンランドの「スオメンリンナ(武装解除)の城塞」です。日露戦争が追い風になってロシアから独立できた、その時の発進基地がここだったこともあって、城塞や日本に対して特別の思いがある由伺いました。ちょうど城塞を舞台にして、子どもたちが史劇を演じている姿に出くわしました。みな真剣そのもの、思わずシャッターを押しました。

歴史を認識させるために、このような試みがよくされているそうです。

旅を続けている中で、遺産を大切にしている気が随所から伝わってきました。課題を抱えながらも、世界遺産がふえていくこと、地球全体に広がっています。

「ヒロシマから来たのか、よく来たね。今日(八月六日)テレビでニュースを見たよ。がんばって……。」

「和泉さんは、今夏、日本ユネスコ協会連盟主催の世界スタディーツアーへ参加されました。」

旅を続けていた人々の力に心を動かされました。

旅を続けていた人々の力に心を動かされました。

くことをまわりの人たちとともに願いました。

今回ご一緒したみなさんから、豊富な活動経験を聞かせていただき、教わることの多い旅となりました。帰国後も台風は、宮島は、と心配する声や、東海村の近くからは恐怖と不安・怒りの声が届いています。

また、前回の中央アジアの旅と町(キルギスの近く)の人たちからかけてもらった言葉を、改めて思い起こす機会にもなりました。

「ヒロシマから来たのか、よく来たね。今日(八月六日)テレビでニュースを見たよ。がんばって……。」

「和泉さんは、今夏、日本ユネスコ協会連盟主催の世界スタディーツアーへ参加されました。」

旅を続けていた人々の力に心を動かされました。

旅を続けていた人々の力に心を動かされました。

国際子どもキャンプ支援

第31回ユネスコ国際子どもキャンプが八月五日から八日まで宮城県南蔵王青少年旅行村で開催され、広島から七名の子どもとキャンプ事業に理解ある企業からスタッフ一名が参加。この事前説明会を七月十一日、二十五日に牛田公民館にて実施した。また、八月三日、九日の広島駅までの引率を行った。

(青年会員・田川哲也)

日誌

【八月】

一日 ユネスコ協定会案内・入会勧誘パンフ発行

三日 ユネスコ世界遺産写真展(広島そごう、真展)

六日 原爆ドーム画合作会(山崎理恵子会員主宰。後援事業)

【九月】

八日 文化部会

十日 「知っておきたいヒロシマ講座」受講者締切

【十月】

三日 同

九日 全国生涯学習フェスティバル関連事業

【十一月】

一日 同

【十二月】

一日 同

三日 同

五日 同

ロン「広島島の伝統産業・仏壇」熊本仏壇熊本了子代表取締役社長

「知っておきたいヒロシマ講座」第1回「原爆ドーム編」

「わが町のお宝」再発見(主催、アステールプラザ)

「知っておきたいヒロシマ講座」第2回「歴史編」軍都広島・原爆投下」

「知っておきたいヒロシマ講座」第3回「碑めぐり編」

「知っておきたいヒロシマ講座」第3回「碑めぐり編」

「知っておきたいヒロシマ講座」第3回「碑めぐり編」

「知っておきたいヒロシマ講座」第3回「碑めぐり編」

「知っておきたいヒロシマ講座」第3回「碑めぐり編」

「知っておきたいヒロシマ講座」第3回「碑めぐり編」

国際弦楽ワークショップを開催

この8月、広島市はユネスコと共催して、「世界音楽祭一オーガスト・イン・ヒロシマ'99」を開催したが、協賛事業として、「ひろしま国際弦楽ワークショップ99」(8月20日~27日、広島ユネスコ協会も後援)を開催した。

これは、姉妹都市ハノーバー市(ドイツ)在住の国際的に著名なチェロ演奏家クラウス・シュトルク教授の強い要望もあって広島市で開催したもの。優れた音楽教育家でもある同教授のもと、ヴァイオリン、チェロ部門で将来音楽家を志望するドイツからの1名を含む25名の受講者が8日間合宿。望ましい音楽活動への姿勢、演奏技術を3人の講師で指導、顕著な成果をあげた。

また、市民のための3回の演奏会では、生き生きした演奏に聴衆は喜びと感動を得た様子であった。

運営は地元の音楽教育関係者を中心に実行委員会を組織してあつたが、当協会から亀井事務局長、井尾理事にも献身的な助力を得た。

多くの方から次回開催の要望が寄せられ、ボランティアとして主催者の一員に加わった自分にとって大きな喜びであった。(常任理事・藤井正一)

十八日 第89回ユネスコ・サ

三十日 第2回広島ユネスコ活動奨励賞公募締切